



「大鹿村騒動記」を撮ってこの地を世に知らせて下さった原田芳雄さんから亡くなられた後 春秋の舞台公演の日はずっと雨、続きました。今年は大晴天になり多くの方が爽やかに美しい春の大鹿村と村役者さんたちの張り切った舞台を思う存分楽しめた事でした。暑い日あり寒い日あり雨はなし、蒔いた野菜の種は順調に育ち今や莖が下って花の咲きはじめました。地面が乾いていて次の種も蒔かず野菜苗を植えずにありましたらようやく雨が来てくれて「よし作業た」と喜んでおいて梅雨入りした雨だを知り「どうですか」という感じで例年より早いとは聞きますがいろいろな事か前へ前へと進んでいてその流れに乗れずいささか茫然気味の自分と出会っております。長男の子とかが今年の四月小学一年生になったとたんそれまでの幼なじみばかり抜けて見事に自分の考え、思いを主張し意見を伝える者になっていてびっくりいたしました。それと同様今の自分の姿も成長といえは成長です。冷静に受け止めそれなりに歩もうと考えます。いよいよ後半戦です。

梅雨に入った空は昨日に続いて今日も雨、作業したくてお出まじいという憎らしい雨に悩んでいます。新緑から充実した緑に切り替わった梅雨の後はこもがお化けみたいになっていきます。パイカイチガキには「おの度よ」といわんばかりに元気です。アツモリ草は何も主張せず静かに気高く咲いています。アヤメ、カキンバクが姿勢を正し謙虚にと教えてくれます。バラかそうで存りつゝ少しは華やかにねといっています。花の声はよく聞かえて来るのですか草たちも何か言っているのでしょうか。これは気がつきませんでした。今度草たちの声を拾ってみようと思いました。

長女が久美は変な人でいとお虫も虫も大好き。それと手ありにのせて名前を調べてはその名をいいながら可愛いねと連発。そして外へは出すのです。蝶にのって舞い上がる時の感動は格別です。いとお虫はたまりません。こもからか恐いところ。二人の男の子たちはテニスと釣りに夜仲良く釣のしかけを作っている母はいいものです。正介父は朝早くに山に出かけて行き野鳥の声を聞くことか入好き。その帰りにはわらわをしっかりと採って帰ります。友子祖母は読書、おはヨカ、夢中に住める世界を持つことは本当に大切な事。お互い大事に育てましょう。

一年中で一番美しい時が過ぎていきます。六月は又か前島家の晴れの日か待っています。新たな決意を持ってお出する長男允です。どうか皆様よろしくお願ひ致します。

